



# 団体たまたま箱

インタビュー  
してきました!!



歴史と文化でまちおこし、子どもたちへの伝承を

観る人の心に届けたい!

## むかさ 穆佐城跡 島津久豊公愛護会

## 劇団ゼロQ

**設立** 高岡町穆佐地区は、平安の昔、穆佐の院とよばれ京都の有力貴族の由緒ある荘園であり、その後、元弘年間に足利尊氏の直轄城として穆佐城が築かれた。室町から戦国時代にかけて島津氏と伊東氏が激しい攻防を繰り返して、九州で最も古いといわれる山城で、国内でも五指に入り、現在、国指定史跡である。島津家8代当主島津久豊公(1375年~1425年)は同地で亡くなったと伝えられている。

**設立** 2009年1月、宮崎県立芸術劇場主催「演劇人養成講座「劇団をつくろう!」」の第一期生が1回限りの発表公演「波と線路」を上演した。講座が終わって解散となるどころだったが、「このまま終わらせてしまうのは寂しい」と、週に1回集り「体を動かし、声を出そう」とサークル的な活動を始める。それが次第に、「目的をもって練習しよう!」ということになり、2009年4月、劇団を旗揚げ。劇団名の「ゼロQ」は、2009年の「09」ゼロキュー。現在、メンバーは8名。



10年前、その穆佐地区一帯が水に浸かったとき、地元の泉本栄三氏が地域再生のために何とかしなくてはという意を強く、地元の歴史に詳しい大工の石野田吉雄氏などと相談し、「穆佐城南会」を立ち上げ、城の下を流れる大淀川水系の瓜田川河川敷の草刈りからはじめ、穆佐城跡と島津久豊公墓の清掃、修復など、史跡を甦らせる活動を始めた。平成25年、その会のメンバー約20名が中心となって「穆佐城跡 島津久豊公愛護会」が発足した。愛護会、穆佐城南会両方で会長を務める泉本氏は、「愛護会で整備した史跡を活かして、高齢化が進む地域を盛り上げ、県内だけでなく、島津氏と関係の深い鹿児島県からも人を呼び込むイベントを仕掛けたい」と、将来を見据えた活動目的を据えた。



**活動** 「劇団ゼロQ」の旗揚げ公演は、みやざきアートセンター開館記念事業「フリマの女」(2010年3月)。その後、「骨の教室」(2011年3月)、「29万の隼」(2012年3月)とつづき、2016年1月の「風琴の駅」まで12回の公演を重ねてきた。

「骨の教室」の作・演出は当代表の岡田心平氏。「29万の隼」は、口蹄疫をテーマとしたドキュメンタリーシアターである。俳優自ら、農家や獣医師、ガソリンスタンド従業員やトラック運転手、商店主など70人以上に取材し、それを一言一句書き起こして一つの演劇作品を作り上げる、日本でも稀なスタイルの演劇作品である。岡田氏を中心に広く県内の劇団に参加を呼びかけ劇団を越えたプロジェクトを結成し、活動を始めていたが、志半ばにして2011年6月、代表の岡田心平氏が急逝。その意思を受け継ぎ、プロジェクトを存続させようというメンバーの強く熱い思いが集結した。



2012年初演の後、2013年に再演、2015年は口蹄疫から5年を機に大幅にリニューアルした作品を上演した。

メンバーはそれぞれ、昼間は様々な仕事の傍ら、夜間に稽古を重ね、小道具作りや宣伝活動までこなす。年2公演のペースで熱心な活動が続く。

2015年度は、「かぶき橋物語」(6月)、「29万の隼2015」(9月)、そして1月に公演された「風琴の駅」と3公演となった。この「風琴の駅」は、染色家であり劇作家・童話作家の藤井貴里彦が劇団ゼロQのために書き下ろした新作である。記念すべき旗揚げ公演「フリマの女」の作者である。

2013年に劇団ゼロQ生みの親でもある永山智行氏(劇作家・演出家)と共同で「みやざき岡田心平演劇賞」を創設。毎年、岡田氏の命日である6月に宮崎県内で演劇活動に頑張った人を表彰する。翌年、第2回より戯曲部門が加わった。公募で集まった戯曲を審査し、受賞作品を永山氏の演出でリーディング上演(観客に公開した状態で脚本の読み合わせを行うこと)している。これまでの受賞作「野本食堂」(2013年)、「かぶき橋物語」(2014年)。2016年度の戯曲部門の表彰公演は、6月26日を予定している。

**活動** 薩摩藩および穆佐城に関する歴史と文化を地域住民や子どもたちに伝え、地元に残る貴重な財産を通して絆を深め、伝統や祭りを大切に地域一丸となって「お互い様」のネットワークを作り上げていくための活動をしている。穆佐城跡と島津久豊公墓の清掃や修復、その他史跡の発見にも励んだり、地元小学生の社会科体験授業等にも協力している。

平成26年11月には、「第1回悠久歴史ロマン穆佐城まつり」を穆佐城跡にて開催。小学生武者行列や弓体験、朗読劇などが行われた。「穆佐地区地域おこし」「穆佐地区の子どもたちが自分たちのふるさとの歴史を学び、誇りを持って欲しいとの願い」から本会のメンバーを



**これから** 「今後は、甲冑づくりなどを施設の入居者などと一緒にやっていくなど、福祉の分野の人々との協働を進めていきたい。意欲のある若い方々の参加を大歓迎。さらに他の市町村にも出かけ、交流するなど、穆佐地区以外にも活動を広げ、夢は「山城サミット」。直近では5月の連休におまつりを計画中」と、泉本代表。

**これから** 演劇人養成講座「劇団をつくろう!」は、2015年度で8期目の劇団が生まれた。講座の卒業生による合同公演を2016年10月に控え、準備を進めている。

前田晶子代表は、「29万の隼」と「風琴の駅」は、大事にしていきたい作品と語る。今後は、「29万の隼」を県外公演、「風琴の駅」は再演を考えているそうだ。「演劇は、見る側も想像力を駆使して観る面白さがある。稽古の見学をしたい方は、ぜひご連絡下さい。」と前田代表は語った。

お問い合わせ先

代表者:泉本 栄三  
TEL:080-6427-1045

お問い合わせ先

劇団ゼロQ  
TEL:090-9481-0909